

## 平成31年度 授業改善推進プラン

## 第1学年 社会科

## 1 目指す学力・目指す授業

- ・基礎的・基本的な学力の定着を図り、生徒の学習意欲の向上を目指す。
- ・授業のねらいの明確化、指導内容の焦点化と流れの提示、反復学習による知識の定着化を図り、一単位時間の授業で何がわかり、何ができるようになったかを生徒自身が実感できる授業を組み立てていく。

## 2 生徒の現状&lt;定期考査等からの分析&gt;

- ・「目標をもって学習に真剣に取り組んでいるか」について「はい」「どちらかといえばはい」と答えた生徒が約84%に達しており、入学当時から意識の高さが感じられる学年である。
- ・「授業の予習・復習をしていますか」について「どちらかといえばいいえ」「いいえ」と答えた生徒は約24%程度いる。一部の生徒はその日その時間に学習したのみで復習や予習は実践に繋がっていないのが現状である。

## 3 生徒の学力・学習状況等の課題と対応策

- 1 小学校で習得すべき「ノートを丁寧に書く」といったことが身に付いていない生徒が目立ち、習得状況に影響しているため、教員側の働きかけでは、後で見た時に分かりやすいノートを作るために、丁寧に見やすくまとめていく力を育成していく。
- 2 家庭学習の習慣化ができていないため学習内容が知識として定着していないので、家庭学習が継続するような力を育成する。
- 3 一つ一つの授業の中での内容は理解できるが、それを歴史の流れの中で把握することに課題があるので、単元全体の学習内容を理解しまとめる力を育成する。

## 4 具体的な授業改善策

- 1 に対する具体策 定期考査後などノートを定期的に点検する機会を設ける。字を乱雑に書いている場合には個別に声かけをして、きれいにまとめる方法について指導する。生徒同士でもお互いのノートを見合う機会を設ける。
- 2 に対する具体策 学習内容を理解しているかを授業のウォーミングアップとして一問一答形式で答える場面を取り入れていく。習熟度が低い場合、再度説明を行い家庭でもう一度見直すように促す。
- 3 に対する具体策 本時のめあてー探求や深め合いー振り返りやまとめ を授業の型として誰もが安心して授業に臨むことができる環境を整える。歴史の流れを掴むために、年表などを用いて「自分が今、どの時代を学習しているのか」を視覚的にも理解させる。

## 第2学年 社会科

### 1 目指す学力・目指す授業

- ・基礎的・基本的な学力の定着を図り、生徒の学習意欲の向上を目指す。
- ・授業のねらいの明確化、指導内容の焦点化と流れの提示、反復学習による知識の定着化を図り、一単位時間の授業で何がわかり、何ができるようになったかを生徒自身が実感できる授業を組み立てていく。

### 2 生徒の現状<定期考査や児童・生徒の学力向上を図るための調査からの分析>

- ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果において、「思考・判断・表現」は43.7%、「技能」は56.2%、「知識・理解」は43.7%であった。また「社会の授業の内容がよく分かる」と回答した生徒が79.5%と高かったことから、今後は学習した内容を復習する機会を積極的に設けることで「知識・理解」の力を伸ばしていくことが課題である。
- ・生徒の授業アンケートから、その授業で「何を学ぶのか」目標をもって、真剣に取り組んでいますかという質問に「はい」「どちらかといえばはい」と答えている生徒の割合は昨年度82%だったのに対し、今年は79%と若干意識面で低下傾向が見られる。
- ・「授業の予習・復習をしていますか」について「どちらかといえばいいえ」「いいえ」と答えた生徒は約56%に達しており、復習や予習は実践に繋がっていないのが現状である。

### 3 生徒の学力・学習状況等の課題と対応策

- 1 テスト直前にまとめて学習している生徒が多く、日頃の学習習慣が身に付いていない傾向が見られる。教員側の働きかけにより日々学習に取り組む力を身に付けさせる。日頃の授業で前回の内容を確認する時間を設ける。
- 2 東京都の学力調査結果からも解決する力の向上が必要である。そのために授業で課題に対する解決策を一人一人考え、ノートに書き出す時間を取るようにして、自ら解決する力の向上を図る。
- 3 地理的分野のグラフや資料の読み取り、歴史的分野の年表や図の読み取りに取り組む姿勢に課題が多くある。そのために授業では資料から読み取る機会を十分に確保する。

### 4 具体的な授業改善策

- 1 に対する改善策 毎回授業の導入部分では前時の振り返りを行う。復習を行うことの重要性に気付かせる。次回の授業に向けて課題を出して取り組ませることで、家庭での学習でも授業前の休み時間でも学習内容に触れる機会を設ける。
- 2 に対する改善策 本時のめあてー探求や深め合いー振り返りやまとめ を授業の型として誰もが安心して授業に臨むことができる環境を整える。課題解決の授業を定期的実施し、課題について考え、自分なりの解決策を導き出せるように指導する。
- 3 に対する改善策 授業の中で資料読み取りの時間を積極的に確保する。問題演習の際は机間指導を行い生徒の取り組み状況を把握し、進捗状況を見ながら声掛けを行う。資料を読み取ってまとめあげた文章にも注目し、自信をもたせるよう指導する。

## 第3学年 社会科

### 1 目指す学力・目指す授業

- ・基礎的・基本的な学力の定着を図り、生徒の学習意欲の向上を目指す。
- ・授業のねらいの明確化、指導内容の焦点化と流れの提示、反復学習による知識の定着化を図り、一単位時間の授業で何がわかり、何ができるようになったかを生徒自身が実感できる授業を組み立てていく。

### 2 生徒の現状<定期考査等からの分析>

- ・生徒の授業アンケートの「あなたは、授業の予習・復習をしていますか」という項目でどちらかといえればいいえ、といいいえの割合を合わせると約43%と多くの生徒に予習・復習の習慣が身に付いていない現状がある。
- ・同様のアンケートにて「あなたは、授業の内容をよく理解していますか」という項目においてどちらかといえればいいえ、いいいえを合わせた割合が約20%となっており、一人一人の生徒の実態に合わせた授業改善を行っていくことが課題である。

### 3 生徒の学力・学習状況等の課題と対応策

- 1 テスト直前にまとめて学習している生徒が多く、日頃の学習習慣が身に付いていない状況があるので、教員側の働きかけにより日々学習に取り組む力を身に付けさせる。
- 2 重要語句の意味を考え、深い理解をすることに慣れていない現状がある。そのため、テストの時など聞かれ方が変わったり、思考問題になると答えられないということがある。したがって、知識の意味を考えたり、深める活動に取り組む時間の充実を図る。
- 3 グラフ、資料、年表や図の読み取りをあきらめずに向き合う姿勢に課題があるので、資料に触れる機会と読み取る時間を十分に確保し、資料読み取りの力を育成する。

### 4 具体的な授業改善策

#### 1に対する改善策

授業の最初に一問一答を行い、前時の振り返りを行い家庭での学習の重要性に気付かせるようにする。また毎日課題を出し、週に1回定着確認のためのテストを行うことで家庭学習を習慣化させる。

#### 2に対する改善策

めあてー探求ーまとめを授業の型として誰もが安心して授業に臨むことができる環境を整える。また、学び合いの場面では既習内容の重要語句をまとめ直したり、他の生徒に説明するなどの活動を通して、深い知識理解と表現力の向上を促す。

#### 3に対する改善策

資料読み取りの時間を十分に確保し、机間指導によって生徒の取り組み状況を把握しながら声掛けを行い、資料読み取りの力を育成する。